

とうもろこし



主な加害種：カラス、タヌキ、ハクビシン、アライグマ



加害種：カラス

カラスはくちばしを使って、穂の先端から皮を引き裂くようにむいて、実を食べる。穂が根元で折れることはあるが茎が傾くことはほとんどない。

撮影：百瀬浩



加害種：タヌキ

タヌキの食痕では、茎が倒され、食べ散らかしていたり、泥がついていたりすることが多い。畑では下側の土がついた部分は残すことが多い。実ごと持ち去ることもある。

撮影：古谷益朗



加害種：ハクビシン

ハクビシンの食痕では口で噛みとったような痕が残る。茎が斜めになることも多いが、倒れることは少ない。

撮影：百瀬浩



加害種：アライグマ

アライグマは穂を持って食べるので、全周きれいに食べ、茎が倒れることが多い。実ごと持ち去ることもある。

撮影：古谷益朗



ハクビシン、タヌキ、カラスによる複合被害と考えられる(撮影:古谷益朗)。



ハクビシンによる食害では茎を斜めに倒して実を食べることが多い(撮影:古谷益朗)。



カラスによる実の食害。カラスの食害は圃場の周縁部に多い(撮影:山口)。



とうもろこしの出芽時のカラスによる食害。苗を引き抜いて種(コーン)部分だけを食べる
(撮影:吉田)。



加害種:ニホンジカ

子実等の食害のほか、倒伏被害も生じる。

提供:長野県